

「良い夫婦の日に改めて」

昨年 11 月に家内のことを書くと思いのほか反応が多く、改めて世に不幸な結婚生活を送る人が多いことに驚いた高野です。

ウチは草食動物に食べられる草みたいな奥方と表現すると、「うらやましい」という声が相次ぎ、窮状のメールを沢山いただきました(笑)。

中でも一番、笑ったというか、感動したのが以下のもの。(以下引用)

私は 8 年前に前々職(大分会社、約 18 年)をリストラで辞める際、妻から「要らんといわれよるんやけん、はよ一辞めて佐賀に帰ろうや」が結構ショックでもあり、そうやな、自分が辞めれば社員の誰かは辞めずに済むやらの意識で辞めました。

社内からは辞めるなどの声もたくさんあったことはある意味嬉しかったですが・・・

でも、その奥には次男坊(当時小学校 4 年生)が学校生活に馴染めずにいたことを妻が心配してのことだったこともあります。

奥さんの話を聴かないといけないとは思いつつもなかなかバタバタしてですね。(引用ここまで)

「要らんといわれよるんやけん、はよ一辞めて～」なんてセリフに映画「極道の妻たち」の岩下志麻さんのようなキリツと美しい奥方を想像しました。

勿論、この方は起業して今、成功してあるからこそ言えることだと思うのですが、私だったら泣きますよ、マジで。

でもこのご夫婦には奥様にしか見えなかった問題があったのかも知れませんね。男は仕事に熱中するあまり、家族全体が見えなくなるのかもしれない。

また私の場合は、自分の思考回路が正しいとは限らないのに、正しいと信じ切ってしまうとツボにハマることが多かったようにも思います。

昔、コンピュータの技術者をやっていた時、必ず新人と先輩で繰り返されるやりとりがありました。「先輩、コンピュータがおかしいです。プログラムが上手く動きません。」(私も同じセリフを何度も吐きました。)

すると先輩は必ずこう返します。「コンピュータは間違わない。間違ってるのはお前や。お前のプログラム通り動いてる」って。

そう考えると最近「夫婦、4つの目で見たらいいじゃないですか」という或る先輩の言葉も肚に落ちてるようになりました。

いつもと違う視点から見るとブルーオーシャンは案外近くにあるのかもしれない。

昨年「りゅうま伝」に書いた奥様のいう事に100日、何でも「ハイ」という実践。

あの後、何度もリトライして一度達成はしたものの気づくと元に戻ってワガママを通そうとしている自分があります。

11月22日、「良い夫婦」の日に決意を新たにしました次第です(笑)。